

地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会学術データ共有小委員会（第25期・第1回）

議事要旨

日 時：令和3年7月5日（月）13:00～15:00

会 場：遠隔会議（Zoom会議）

出席者（以下、敬称略）：中村 卓司、大谷 栄治、小口 高、木村 学、近藤 康久、佐々木 晶、
古屋 正人、村山 泰啓、渡邊 誠一郎、大坪 俊通、金尾 政紀、田中
良昌、能勢 正仁

オブザーバ：堀 利栄（学術試料共有小委員会委員長）

3. 議 題

（1）小委員会運営について（議事要旨の委員長一任について等）

資料1に基づき村山委員より説明がなされ、議事要旨の委員長一任について、また委員・関係者のメールアドレスの明示・共有（bccでなくTo, CCで明示すること）について、および本会合の録音について（非公開。議事録作成用。議事録は後日、委員全員に回覧・修正）、承認された。メール審議は、必要な場合に実施することで承認された。

（2）小委員会委員の紹介

村山委員、および中村委員（地球・惑星圏分科会委員長兼任）により、本小委員会設置の背景、委員会の概要・設置の目的、委員名簿について説明があった。その後、各委員・堀オブザーバにより、自己紹介（所属・氏名・他）及び委員会へのコメント・要望が、それぞれ簡潔に行われた。

（3）小委員会の役員の変遷

委員長に村山泰啓委員が互選され、副委員長に木村学委員、幹事に能勢正仁委員と金尾政紀委員が指名された。

（4）小委員会の活動方針について

村山委員長より、「オープンサイエンス時代」における研究データ共有の国際動向について、スライド(席上資料共有)をもとに紹介がなされた。

その後、本小委員会としての提言／報告(意思の表出)等について、議論が行われた。

・ 第三部が開催する提言予定についての意見交換会に中村卓司 地球・惑星圏分科会委員長が出席し、本小委員会も提言表出予定として説明する予定とのこと。

・ 提言表出への賛成意見、国内のデータ基盤（インフラ）整備への実効性のある活動の重要性、今後は国研等（*）によるデータ基盤整備へ期待したい旨、またNII（国立情報学研究所）Research Data Cloudの活用・ストレージの拡充への期待などについて意見があった。（*：当委員会では、国立研究開発法人、大学附置研究所、大学共同利用機関法人等を「国研等」と呼称することとした）国内の大学等のデータリポジトリの現状について俯瞰した情報をふくめた提言が、日本学術会議第24期オープンサイエンス委員会から出ていることがコメントされた。

- ・ 学術会議と政府内では科学や技術について考え方が異なる場合もあり、オープン化は各国の利害とも関係すること、理念と実効性の相互調整（妥協）も大切との意見があった。
- ・ 各国研等の役員レベルでの意思疎通、連携した活動が重要であるとの意見がだされた。
- ・ 研究者によるデータマネジメント作業の限界、海外でのデータ管理専属人材の充実とくらべて、我が国の対応が不足しているとの意見がだされた。
- ・ 地理空間情報分野では近年、日本は欧米とくらべて同レベルに進展していること、合成開口レーダデータは大型機関が主にデータ管理・提供しているが一部は商業利用と関連した難しい側面があるとのこと。天文学分野は基本的にはオープンサイエンスがベースであること、人文・社会科学での議論等も参考にできる可能性、IUGONETの例も参考にしては、等のコメントがあった。
- ・ 我が国のスタンスを早く明確にすべきとの意見について、オープンサイエンス推進はすでに既定路線であるのでオープンにできるデータを対象に議論を絞るのがよいとの意見が出された。
- ・ 学術試料共有小委員会との合同シンポジウム開催検討については、先に本小委員会の大枠の方向性をまとめることとなった。

(5) その他

とくになし。

4. 配布資料

資料 1 : ●分野別委員会小委員会（第25期・第1回）での審議事項について

資料 2 : 01【参考 1】●委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン

資料 3 : 学術データ共有小委員会設置提案書

資料 4 : 学術データ共有小委員会名簿

参考資料 1 : 学術試料共有小委員会設置提案書

参考資料 2 . 学術試料共有小委員会委員名簿